

あべつみ 阿部哲己 市議会・活動報告

令和 6 年
7 月 14 日
第 17 号

今回は令和 6 年 6 月定例会について報告いたします。

6 月定例会 (5 月 31 日～6 月 17 日) での一般質問 (6 月 14 日)



6 月定例会動画



1 ごみの指定袋の改善を提案する (動画の開始～5 分 50 秒位まで)

市民の方から、**ごみ袋を買ってきた時に世帯番号を書き込みたいのだけれども、たたんであるごみ袋を全部開かないと書けないので、世帯番号を書きやすくする改善ができないものか**というご提案がありました。

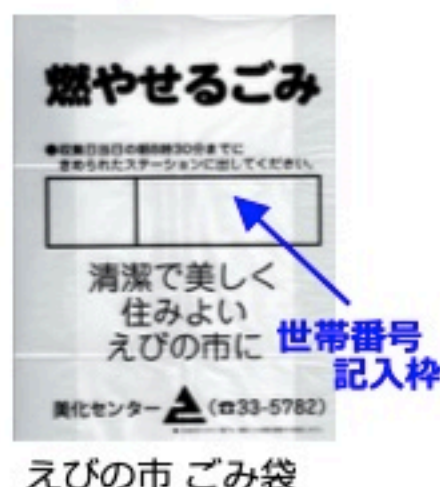
ごみを出す時の世帯番号の記入漏れは、どの自治会でも起きていると思います。改善できれば、環境美化推進員の人たちも喜ばれることだと思います。この改善についてお尋ねしました。

【市民環境課長答弁概要】

現在は、ごみ袋の種類や記入枠を表示した面が内側になるように折りたたまれ、包装用の袋に梱包されています。これを現在とは裏向きに折りたたむことで、袋を展開することなく、自治会が定めた番号等を記入枠に記入できるようになり、市民の利便性が向上するというご提案かと思えます。

製造業者によると、現在の製造ラインに工程を増やさないと、ご提案のたたみ方への変更はできず、印刷位置の違いから印刷の元になる版から作り直さなければならない袋もある。いずれの変更も設備投資が必要で、原材料や人件費等の経費も高騰しており、卸価格への費用の転嫁は避けられないとのご回答でした。

生活必需品でもある**ごみ袋の値上げは、市民への影響も大きいこと**から、**現状通りの折りたたみ方を継続したいと考えている。** [終]



えびの市 ごみ袋

私は令和 4 年 12 月の定例会で、小林市や高原町と同様の、ごみ袋の共用化を提案(※1)しました。(※1 阿部哲己 市議会・活動報告 第 11 号の p2 参照。)

5 種類の袋を買う手間をなくすこと、ごみ袋の価格が安くなるという利点を挙げ提案したのですが、環境美化推進委員さんの大半の反対を理由に、ごみ袋の共用化は見送られました。

今回の提案である、世帯番号を記入し易くする改善についても、環境美化推進委員さんの意見を聞いていただきたいと思います。また、現行のごみ袋を製造している会社さんだけではなく、他の会社さんにも問い合わせをしていただきたいと思います。

最近の話ですが、**一人暮らしだとごみの量が少ないので 現行のごみ袋よりも小さなごみ袋を作ってほしい**というご要望がありました。

その方には、現行のえびの市の 5 種類の袋それぞれで大きさの種類を増やすと、ごみ袋の種類が多く(※2)なり、種類ごとの作成枚数が減ることでコストが高くなり値段が高くなる可能性があること、小売店でも陳列場所が増えることに難色を示されると予想されるので難しいだろうとお伝えしました。(※2 $\text{ごみの種類} \times \text{大きさの種類} = 5 \times 3 = 15 \text{種類}$)

でも、ごみ袋の大きさの種類を増やしてほしいというお気持ちは良く分かります。

えびの市のごみ袋は、ごみの種類が 5 種類で、大きさが 2 種類ですが、**小林市や高原町のようにごみ袋を共用化し大きさの種類を 3～4 種類に増やす方が、市民の利便性は高くなる**と思います。

阿部哲己 市議会・活動報告 第 11 号がお手元にならない方は あべつみ後援会 のホームページのバックナンバーでご覧いただけます。

右の QR コードからもご覧出来ます。

あべつみ後援会



討議資料

2 硫黄山からの噴出物による河川への影響について (動画の5分50秒から34分15秒位まで)

○市民及び関係者への情報提供が遅かったのではないかな。

私が硫黄山からの噴出物による河川への影響について知ったのは、4月27日の宮日の記事が最初でした。宮日の記事では、赤子川上流で昨年12月に白濁が確認されたこと、昨年7月にも白濁が発生し、それ以降、水質改善施設の取水堰付近に硫黄山からの噴出物がたまり、運用に支障が出ていたとされています。また、5月11日の記事には、岡元の水利組合長さんは急に対応を求められ、農家に不安が広がっているとのコメントが書かれています。

硫黄山からの噴出物による河川への影響について、市民への情報提供が遅かったのではないかと感じ、いつ頃から水質が悪化していたのかを調べてみました。

県が公表している水質検査結果で、えびの橋のデータを見ると、12月6日のデータに対し、12月13日はフッ素やホウ素は約100倍に増加するなど、極端に悪化しています。

この時点で、市民に事実を公表すべきだったと思い、市長に尋ねました。

〔市長答弁概要〕

前回の硫黄山からの噴出物の赤子川への流入を受け、水質監視緊急取水停止システムを各水利組合の取水口に設置し、随時、pH(ペーハー)を感知するシステムを導入しています。

このデータは、農林整備課、建設課、畜産農政課で確認をしており、市長室でも見られるので、私もほぼ毎日確認をしています。県が公表する水質検査結果ではなく、随時確認できる水質監視の方を皆さんと共有をしており、対応を急ぐ皆さん方には随時情報が伝わっていたので、12月の時点の変化も把握はしていたが、特に市民に向けての公表はしませんでした。〔終〕

県が公表している水質検査結果で、12月13日のデータは、フッ素やホウ素が1週間前に比べ約100倍の数字になっています。そして、12月20日、26日、1月4日、10日と連続してデータが悪化しています。1月10日のデータと12月6日を比較すると、フッ素は約2500倍、ホウ素は約1800倍に増加しています。

この時点になってもまだ市民の皆さんに公表していないことを反省すべきだと伝え、今後は、不都合な真実を隠すのではなく、正しい広報を行うようお願いしました。

○硫黄山水質改善施設の設備保全是十分だったかな。

ここでは提示できませんが、水質改善施設の取水堰の上流側の写真(令和5年6月1日時点)では、水が流れる切り欠き部手前には水が溜まっており、沈殿物は切り欠き部より下にあります。

取水堰から流れ出る水は、上澄みの、泥の成分が少ない状態に見えます。

それが12月1日時点では、切り欠き部手前の大半に泥状のものが到達しており、今年元旦の写真では、取水堰の上流側全体に泥状のものが堆積し、泥状のものがそのまま下流側に流れ出ているように見受けられます。

結果論かもしれませんが、12月1日時点の状況を把握した時点で速やかに取水堰上流の堆積物を除去しておけば、えびの橋のデータが12月13日に極端に悪化することも回避できていたのではないかと思います。取水堰上流の堆積物除去が遅れたことを深く反省すべきだと思います。

〔市長答弁概要〕

水質監視システムも含め、農業を守るためのシステムです。最上流部の水質改善システムも水のpHを1しか上げる能力がなく、影響を軽減させる施設なので、県も基本的には農家の方が田んぼに水を入れる時期に、水質の影響をなるべく緩和するという方向で考えられていますので、水質が変わるたびに全ての下流域への影響をなくすために浚渫を繰り返すことは、県としても難しいのではないかと思います。〔終〕

取水堰の上流に噴出物が溜まり、水が流れると同時に噴出物が川に流れ込む状況を止める必要があります。来年はまだ良いかも分かりませんが、5年先、10年先に川全体が汚れてしまうことが懸念されます。

川を守るために、取水堰の上流の堆積物が溜まるたびに取除いて、川の水質がこれ以上悪化しないよう対策を行うことが必要だと思います。

○稲作を断念される地域の農業を将来的にどのように考えるのか。

5月30日の宮日で市長は、「短期間で農業を支える部分に加え、将来的な課題解決についても考えていく」と話されたと書かれています。この将来的な課題解決について尋ねました。

【市長答弁概要】

今の施設の有効活用に加え、作付けを断念された農家への支援です。

将来的にこの状況が続くのかどうかは誰にも分かりませんが、恒久的に影響が少なくなるような施設の運用を農家の皆さん方と共に考えていかなくってはなりません。

代替水源であったり、作る作物の変更であったり、圃場整備なども地元の皆さん方と考えていきたいと思っています。【終】

5月21日の新聞報道で河野知事は、中長期的には下流に代替水源を設ける議論も必要になると言われています。代替水源について、栗下議員が一般質問で、「から国」からのきれいな水を岡元用水路に流すことを提案され、市長はその答弁で、「から国」からのきれいな水を岡元用水路に流す場合、地元負担が大きくなり地元の賛成を得られないという趣旨で答弁されました。

今回の代替水源が必要となる、そもそもの原因は国立公園からの噴出物です。

国立公園からの噴出物によって市内の農業に被害を生じており、その被害を軽減するために「から国」からの水を岡元用水路に流す場合には、国立公園からの噴出物の影響が無くなるまでの間の費用負担は、国が責任を持つべきだと私は思います。市長のお考えを尋ねました。

【市長答弁概要】

6年前も、私もそう思い、国へも、環境省へも、国交省へもご相談しましたが窓口ができず、最終的には県が作っていただいた。災害であり自然からの影響だと思うが、国からの大きな支援を受けていないので、国からの支援を得られるよう県と一緒にお願いしていきたい。【終】

当面は稲作が出来ないということで、稲作からの転作を奨励していくことになるのかも分かりませんが、その場合はその土壌に適した作物を紹介すると共に、その農作物の引き取り先を紹介するなど、農家の方々の生活が安定するようにしていく必要があると思います。

【畜産農政課長答弁概要】

過去の噴火の際にも代替作物への転換を図りましたが、飼料作物以外への転換は普及しませんでした。今期、取水を断念された地域は畜産地帯ということもあり、従来の国の転作関係の事業、今回補正予算でお願いした、市や県の支援事業を活用し、子牛農家との利用供給契約を結び、飼料作物の作付けを推進し粗飼料の確保に努めたい。畜産農政課では、今後について地元の皆さんと関係機関を含め意見交換を行う考えです。【終】

【参考】水質改善施設の取水堰付近の状況（令和6年7月8日時点）



堆積した噴出物
取水堰上から見た
上流側

石を詰めたトンバッグを並べ、噴出物の取水堰への到達を抑制している。

切り欠き部に板を張り、噴出物の流出を抑制。



取水堰上部の状況



取水堰下流からみた川の状況

薄緑色の噴出物が堆積している。

取水堰の切り欠き部の板から下流側には噴出物は流出していない。

3 市役所職員の採用について (動画の34分15秒から51分20秒位まで)

新規採用職員数が昨年は12人、今年は11人と非常に多い状態が続いています。

令和4年6月の一般質問で、職員数300人体制を維持する場合、新入職員の人が40年働くとなると毎年の職員採用は7～8人が妥当ではないかと指摘しています。

昨年、令和5年6月の一般質問でも、総務省が公表している人口1万人当たりの職員数によると、えびの市は類似規模の自治体と比較して職員数が多いことをお伝えし、また2040年代にはえびの市の人口は1万人を下回ると予想されており、300人体制の維持は無理だと考えられるので、職員の長期的な要因計画を検討すべきと提案していました。

長期的な要因計画は検討されているのか尋ねました。

〔総務課長答弁概要〕

現在のところ、職員の定員に関する計画が策定されていませんが、業務量調査や他自治体の計画等を調査研究し、今年度中に一定の計画の策定に努めたい。〔終〕

今年度の新規採用の、男10人、女1人という偏った構成には驚きました。

市長は、新規採用を男女同数にすることが望ましいと思わないのかお尋ねしました。

〔市長答弁概要〕

男女の比率に偏りがあったことは残念に思っていますが、試験や面接で、その人の能力で判断することとしています。女性の皆さん方のチャレンジを今後ともしっかりと求めていきます。〔終〕

令和6年度採用の男10人、女1人に対する受験者数は、男性が25人で女性が7人と、女性の応募者が非常に少ない原因を、どのように分析または反省し、対策を講じるのか尋ねました。

〔総務課長答弁概要〕

職員採用試験の案内の際に、市の公式ホームページで、育児介護のための両立支援制度の概要を掲載し、職員一人ひとりがお互いに協力し、組織全体で子育てや介護を支え合うとともに、性別に関わらず全職員が活躍できる職場環境づくりに努めていることを紹介しています。

えびの市の男女共同参画の取組みの中で、パートナーシップ宣誓制度や生理の貧困への対応、女性相談所の存在も、アピールポイントになると思うので、それらもPRをしていきたい。〔終〕

令和5年度に約600万円の予算を計上して、全庁業務の業務量調査分析が行われています。

この資料を閲覧したところ、職員でなければ出来ない仕事をコア業務、職員でなくても出来る仕事をノンコア業務と定義して分類してありました。

えびの市の市役所全体の年間作業時間の内、ノンコア作業、職員でなくてもできる仕事が全体の64.6%と評価され、さらに、専門性が不要、かつ定型的な作業が全体の42.6%あり、正規職員の年間作業時間の内52.8%は正規職員でなくても対応できる作業だと分析されています。

この業務量調査結果から、市役所の職員数についてどのように分析されたのか尋ねました。

〔市長答弁概要〕

市役所の中で見ていると、当たり前の作業だという感覚のところ、アウトソーシングや、ICT化が出来るという部分がかなりあると分かりましたので、このデータをもとに、今年度中に職員の定員管理に関する計画を、将来に向けた計画を取りまとめていきたい。〔終〕

仕事のやり方を変えることが必要です。

3月定例会で私は、子ども計画策定業務委託料について反対しました。子ども計画策定業務は市役所職員の本来業務であり、職員の人たちの能力向上、及びえびの市の実情に応じた実効性の高い計画とするためには、外部に策定を委託するのではなく、職員が自ら考え学びながら策定すべきだと考えたからです。今回の業務量分析からも、職員が本来業務を行っていないこと、効率化という美名の下で外注化をやりすぎているという反省をすべきだと私は思います。

令和5年度の退職者11人の内、50歳代が5人、40歳代以下の方が4人退職され、ほとんどが転職を希望しての退職と聞き、職員の人たちが仕事にやりがいを感じられているのか疑問です。

全庁の業務量調査を、今年度は職員の人たちで継続中ですが、これにより職員の皆さんの能力向上ややりがい、達成感の醸成につながる業務改善に取り組むようお願いしました。

4 水道水の安定供給について (動画の5分20秒から1時間5分25秒位まで)

○水道料金審議会には、地震後の断水を局限化する優先対策の複数案を提示すべき。

令和6年3月定例会で決定された水道事業経営戦略後期計画(以下、経営戦略)の審議で、将来に向け、地下水を水源とする浄水場を市内4箇所に設置し供給する方針であり、この供給体制の構築に伴い、えびの市水道施設の耐震化率は自動的に向上するので、現状の老朽施設の更新および耐震化率向上は必要最小限度とすると聞いています。

今後設置予定の水道料金審議会に提案する検討案の一つに、南海トラフ地震が起きる可能性が高いと指摘されている2035年までに地震対策を完了するケースを入れていただきたいと考えています。この対策を行うことにより、南海トラフ地震が起きても水道の断水がほとんど起きないように出来る反面、水道料金がどれくらい高額になるのかを提示することになります。

【水道課長答弁概要】

南海トラフ地震が起きる可能性が高いと言われる年までに、新たな水源施設の整備を完了させ、施設の耐震化を図ることは経済的にも時間的にも厳しいものがあり、この水道料金案を水道料金等審議会に諮問することは考えていません。 [終]

南海トラフ地震までに、水道施設をどの状態に整備しておくのかが大切な視点だと思います。具体的には、又五郎谷水源が使えなくなる場合の対策として、山内浄水場とは別に整備する浄水場は1箇所なのか、2箇所なのか、料金案として提示すべきと考えますがいかがですか。

【水道課長答弁概要】

経営戦略に基づき、柿木原浄水場の実使用年数が来る令和34年、西暦2052年を目途に浄水場の整備を図っていききたい。新たな浄水場整備は、水源開発が順調な場合、南海トラフ地震が起きると言われる2035年頃には1箇所程度は完成できると考えています。今後、水道料金審議会において審議いただきますが、市民生活にも大きな影響があるので、料金改定に当たっては審議会の意見を踏まえ、適正な水道料金の見直しとなるよう進めていききたい。 [終]

○柿木原浄水場の沈砂池擁壁が、地震で破損した場合の応急復旧対策が必要。

柿木原浄水場を視察した際に尋ねたところ、震度6以上の地震が起きた場合、沈砂池の擁壁が破損する恐れがあると聞きました。沈砂池が活用できなくなれば水道の供給が途絶えますので、万が一の被害を生じた場合の応急復旧対策を検討しておく必要があります。

【水道課長答弁概要】

柿木原浄水場の沈殿地は建設後44年が経過し、法定耐用年数の60年を超過してはいませんが、擁壁に遊離石灰を有するひび割れ等も確認されています。常時稼働している施設のため、施設を運用しながらの耐震補強が可能なものか調査し検討していききたい。 [終]

○柿木原浄水場使用不能時を想定した、給水訓練及び給水体制の検証が必要。

南海トラフ地震により、又五郎谷水源からの導水管破損や柿木原浄水場の沈砂池擁壁損傷が発生した場合、柿木原浄水場が使用不能になります。一方、山内浄水場は耐震化されており、山内浄水場から防災食育センターや文化センターまでの配水管も耐震化が完了しています。

柿木原浄水場が使えなくなり、他の自治体からの応援も期待できない場合には、市民への給水対策は山内浄水場の水を活用しての応急給水を行うことになると思います。

応急給水塔が、山内浄水場に2基、防災食育センターに1基設置されています。この応急給水塔を活用しての応急給水が迅速にできるよう、訓練を定期的に行うことが必要で、この3基で、どれぐらいの水を供給できるのか、備蓄してある給水袋に水を入れる作業にどれぐらいの時間がかかるのか、1時間あたり何袋の給水袋に水を入れることができるのかを検証することが大切だと思います。

その結果、3基の給水塔では断水している市民の皆さんへの水供給が十分には出来ない場合、給水塔を増やすことを考える必要があります。

今年度中に、応急給水塔を活用しての給水訓練を兼ねた検証を行うようお願いします。



防災食育センターの
応急給水塔

【水道課長答弁概要】

平成 24 年度に、えびの市とえびの市管工事共同組合において、災害における水道の応急活動の実施に関する協定を締結しており、令和元年度に山内浄水場と防災食育センターの給水塔を使用した共同訓練を実施しています。訓練後 5 年を経過し未経験の職員も多くいるので、検証も含めて実施できるよう計画したい。【終】

○給水袋の備蓄の充実が必要。

給水袋の備蓄数は現時点で、何袋備蓄してありますか。

【水道課長答弁概要】

現在、給水袋 10 リットル用が 1,250 袋、6 リットル用が 1,430 袋、合計 2,680 袋を保有している。また、都城市が 6,400 袋など、近隣市町村が 14,000 袋以上を所有しており、災害時には他自治体からのサポートを得られるものと考えています。【終】

南海トラフ地震では西日本全域で被害が起きると想定されています。

他の自治体からの応援を期待することに疑問を感じます。

柿木原浄水場が使えない場合、山内浄水場から供給できる範囲は市全体の 3 分の 1 程度だと聞きました。市全体の 3 分の 2 の世帯で断水します。市全体の給水戸数約 8,000 戸の 3 分の 2 は 5,300 戸になります。

給水袋を、断水世帯 1 戸あたり最低 2 枚は必要だとすると、最低 1 万 600 袋は備蓄すべきです。

○水道の技術者育成が急務。

南海トラフ地震が発生した場合、被害が広範囲に及ぶと想定されており、他自治体からの応援はほとんど期待できないことを覚悟しておく必要があると思います。そのような中で水道を復旧していくには、現場指揮のできる技術者を確保しておく必要があります。地震被害が大きければ 10 人でも 20 人でも技術者が必要になると思いますが、現時点では技術者の数が圧倒的に不足していると思われます。市長は、水道の技術者育成が急務であることにお気づきですか。

【市長答弁概要】

当然気づいています。本市では、水道技術管理者の資格保有者が 5 名おり、平成 30 年度に資格取得したのが最後です。今年度 1 名の水道技術管理者の資格取得の予算を計上しており、技術者の中でも技術継承を図る必要があると考えています。職員の配置の面についても検討します。【終】

5 えびの～鹿児島空港間の公共交通手段確保について（動画の 1 時間 7 分 45 秒位～最後まで）

令和 5 年 6 月定例会等で、えびの～鹿児島空港間の公共交通手段確保の必要性を訴え、えびの～鹿児島空港間での予約型の乗り合いタクシーまたはバス運行の検討をお願いしています。

その後の、えびの～鹿児島空港間の公共交通手段確保についての検討状況をお尋ねしました。

【企画課長答弁概要】

本市独自に、えびの～鹿児島空港間のアクセスバスを運行できないか可能性を探ったが、運転手不足や車両の確保などのさまざまな課題をクリアしていく必要があり難航しています。

一方で本年 1 月に、人吉市の民間事業者で、国の事業を活用した鹿児島空港までのアクセスバスの実証運行が承認されており、この事業の実証運行の状況等を注視していきたい。【終】

あべてつみ後援会

（会長 池嶋 幸）

〒889-4152

えびの市大字島内 1172 番地 15

あべてつみ（阿部哲己）

電話（FAX）0984-48-0044

ホームページ <http://www.abetetsumi.com>

フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/abekouenkai/>

（フェイスブックを利用されていない方もご覧出来ます）

ホームページ



フェイスブックページ



ホームページでは、これまでのパンフレットがご覧いただけます。
フェイスブックページは、フェイスブックを利用されていない人も
ご覧いただけます。